

## 仮面、覆面、猿轡——Mask の記号論

吉岡 洋（京都芸術大学）

”Mask”という英語の三つの訳語のうち、①「仮面」は西洋的な連想を伴い、「仮面舞踏会」「鉄仮面」「仮面の騎士」といったイメージと結びつき、また『仮面の告白』（三島由紀夫）のような文学的比喩を導く。②「覆面」は正体を隠す機能に重点が置かれ、「覆面レスラー」や「覆面パトカー」、さらには審査において名前や所属を隠すことに関して、この語が参照されることがある。③「マスク」は日本語としては医療用あるいは作業用マスクを主に意味し、その役割は隠すことよりも遮断することにある。

①「仮面」とは単なる覆いではなくもう一つの顔である。古代ローマにおいて役者が頭に被る *persona* が英語 *person* の語源であることは周知の如くである。仮面は隠すことが主たる目的ではなく、内部の存在を仮面の表す別な存在へと変容させることが重要である。仮面には変容へのドライブがプリセットされているのである。我々はまた、仮面の下には本当は実は何もないのではないかという空想からも逃れられない（ポーの「赤死病の仮面」）。

②「覆面」は正体を隠すための手段であるが、物語的想像力においては覆面をした人物がキャラクター化し、それによって仮面的な属性を引き寄せることも少なくない。覆面と仮面とはオーバーラップしている。物故した落語家桂枝雀の創作した「覆面パト」についての小話は、覆面が隠蔽と開示とのアンビバレントな狭間にあることを表現している。とはいえ覆面には、仮面のように内部と表層とが行き来し融合するようなダイナミズムは潜在していない。

③「マスク」の主要な機能は遮断にあるが、顔の一部を覆うものである以上、覆面と重なる機能も持つ。マスクをすることで私たちは半ばアノニマスな存在となる。マスクが社会空間において防衛的な働きを持つことは明白であり、そのことに依存する傾向も生じてくる。マスクの象徴的な機能の一つは「私は発話しない」という表明である。パンデミック状況において人々が依存してきたマスクにおいては、感染防止という合理的理由よりも同調性の表明、つまり「私は方針に従うイノセントな存在である」ことを示すものとして機能してきた。

### 参考文献

マルセル・パニョル『「鉄仮面」の秘密』（評論社 1976）、坂部恵『仮面の現象学』（東京大学出版会、1976）、小宮山実『仮面の人間学』（日本評論社、1999）他